

カリキュラム

コースコード：24-105

タイトル	新任管理者研修（4月）		
サブタイトル	リーダーになるための基本行動とは		
研修のねらい	<p>企業を取り巻く経営環境が著しく変化している昨今、組織の中核を担う管理者の役割は益々重要なものとなります。それは単にトップと現場との橋渡し役ということにとどまらず、管理者には組織的かつ効率的な事業展開を推進する責任者という位置付けも期待され、その果たすべき責任は極めて大きいといえます。</p> <p>本研修では、管理者に求められる役割やマネジメントの知識・スキルを学んだ上で、自身に合ったリーダーシップのスタイルを検討し、その発揮に向けたアクションプランの策定に取り組みます。</p>		
研修の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者に求められる役割と能力について理解を深めます。 ・部下育成の重要性と効果的な指導方法を学びます。 ・自身に合ったリーダーシップのスタイルを検討し、行動計画を作成します。 		
対象者	新任管理者 ・初めて部下を持つ管理者、リーダー（管理者として1～2年程度の経験を積んだ方も対象とします） ・将来的に管理者や幹部候補として期待される方 ・自身のリーダーシップの見直しを図りたい方	定員	30名
		研修期間/時間数	2024年4月23日(火)～25日(木)
			3日
		会場	中小企業大学校瀬戸校 2階 大教室
受講料	32,000円		

科目構成

日付	時間	科目	内容	講師
4/23 (火)	9時20分～9時40分	開講式・オリエンテーション		
	9時40分～12時40分 (3H)	管理者に求められる役割と能力	管理者は自身の立場や役割を認識した上で組織を動かす、最大の成果を高めることが求められます。そのため、企業から求められている管理者の役割と能力について学びます。 ・マネジメントの基本と管理者としての姿勢 ・組織づくり・人づくりの3つの視座 ・リーダーとメンバーの役割の違い ・原点（自分理念）を言葉化する	経営コンサルティング波多野事務所 代表 波多野 卓司
	13時40分～17時40分 (4H)	チームを円滑に運営するためのリーダーシップとコミュニケーション	チーム運営を円滑にし、組織目標の達成に導く「リーダーシップ」のあり方を学びます。また、職場における部下との円滑な「コミュニケーション」のポイントについて学びます。 ・深い信頼を醸成する「関わり術」を考える ・認知のチカラを体感する「訊く→聴く→認知する」	
	18時10分～19時10分 (1H)	受講者交流会		
4/24 (水)	9時00分～12時30分 (3.5H)	部下の意欲・能力を引き出す「部下指導・育成」の手法	“組織”と“ヒト”を活性化し、成長させる部下指導・部下育成の進め方を学びます。 ・部下に響く教え方（指導から始めない）を学ぶ ・それぞれの持ち味を生かす～自分流リーダーシップを整理する～ ・心が荒れている部下との関係づくり ～カウンセリング～ ・自信を失いかけている部下との関係づくり ～コーチング～ ・素質・才能を越えるもう一つの道	
	13時30分～17時30分 (4H)	職場で発生する問題への対処法	問題の本質、問題発見から問題解決までのプロセス（基本）を学びます。また、論理的思考法を中心に、職場で発生する問題への対処方法について学びます。 ・チームをまとめる・チームを動かす ・どんな場からも意見を引き出す関係づくり ～ファシリテーション～ ・テーマ別/問題解決グループディスカッション	
4/25 (木)	9時00分～12時00分 (3H)	自身のリーダーシップを考える	客観的に自分の考え方、行動の傾向を分析し、自身のリーダーシップスタイルを把握します。その上で、自身に相応しいリーダーシップスタイルを設定し、実現に向けた「アクションプラン」を作成します。 ・それぞれが抱える問題に対しての講師からのコメント ・「リーダーシップ実行計画」の策定とシェア	
	13時00分～16時30分 (3.5H)			
	16時40分～16時50分	閉講式		

講師氏名	略歴
経営コンサルティング 波多野事務所 代表 波多野 卓司	メーカーにて生産技術・商品開発などに従事したのち、1994年経営コンサルティング波多野事務所を設立。「個人の自律性の向上と組織の活性化」「弱さを生かす」を理念として、さまざまな人材教育・創業支援等に関わり、個別ニーズに対応したガッツ溢れる密着型支援を全国で展開。ほかに、マーケティング支援・組織活性化支援にも力を発揮し、カウンセラー・プロコーチとしての顔も併せ持つ。また、起業家/経営者/組織リーダーの相互支援・相互検討のコミュニティ『一番商品づくり塾』を主宰。メンバーからは日々、多数の起業/新事業/課題解決事例が生まれている。